

第37号 通巻第8巻第2号

1988年3月1日発行

守山市立埋蔵文化財センター

TEL 0775-85-4397

〒524-02

守山市服部町2250番地

## 下之郷遺跡発掘調査終了

前号でも紹介した下之郷遺跡の発掘調査は2月2日で終了いたしました。近年希にみる温暖な天候のもと、雪や霜に見舞われる日々は僅かで、極めて順調な調査となりました。

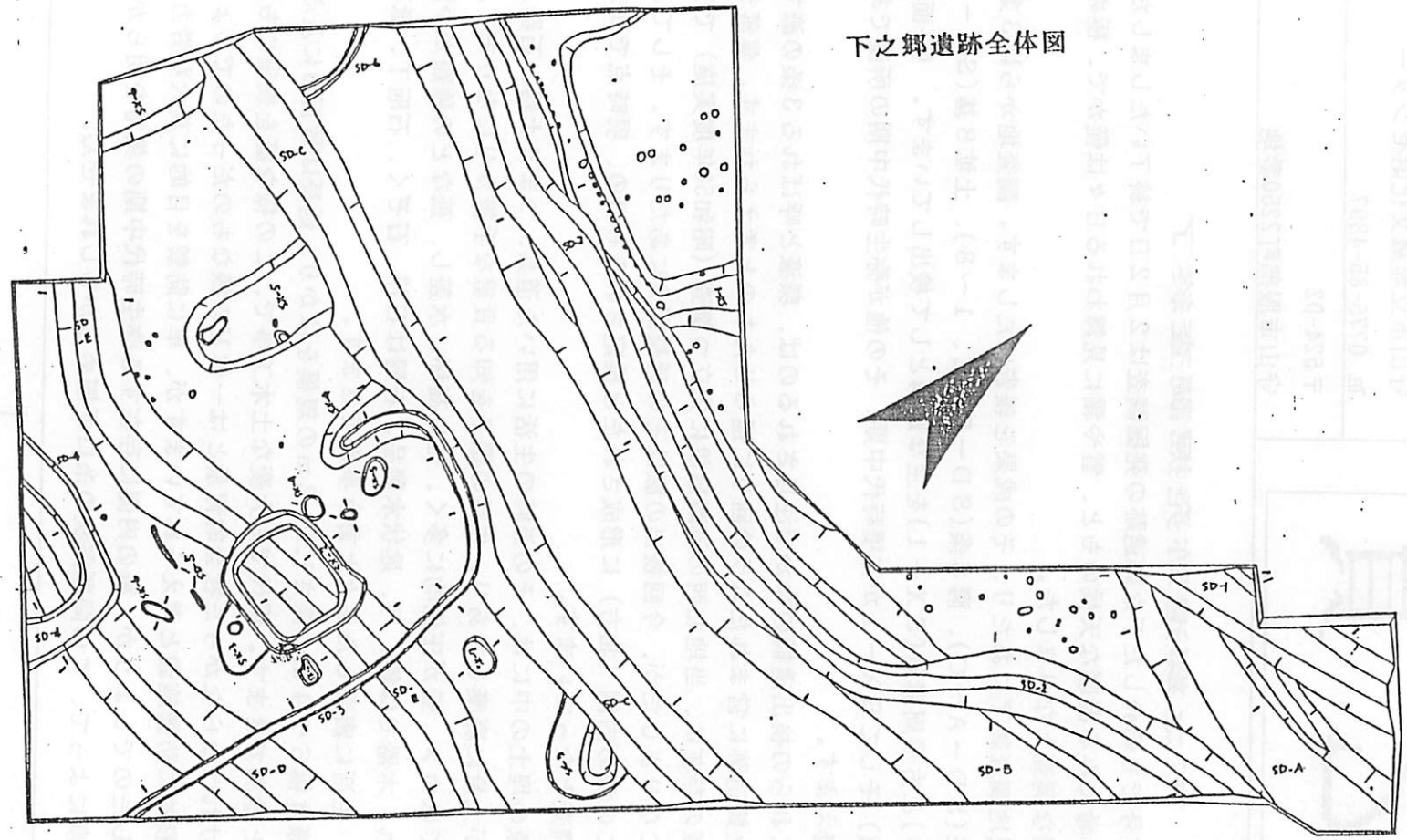
現地調査終了にあたり、その成果を報告いたします。調査地からは3条の環濠(SD-A~C)、溝8条(SD-D、E、1~8)、土坑8基(SK-1~8)と方形周溝墓(SX-1)を主な遺構として検出しています。(平面図参照)そしてSX-1が古墳時代中期、その他が弥生時代中期の所産であると窺えます。

これらの検出遺構のなかで注目されるのは、環濠と呼ばれる3条の濠で、下之郷遺跡に営まれたムラの回りに巡らせたものと考えられます。集落を囲む濠の存在は、当地北西の道路建設に先立つ調査(昭和58年度実施)で明らかになりましたが、今回検出の濠はその延長部分にあたります。そしてムラはこの濠の内側(北方)に形成されたと推定されるものの、現時点では未だ未調査となっています。

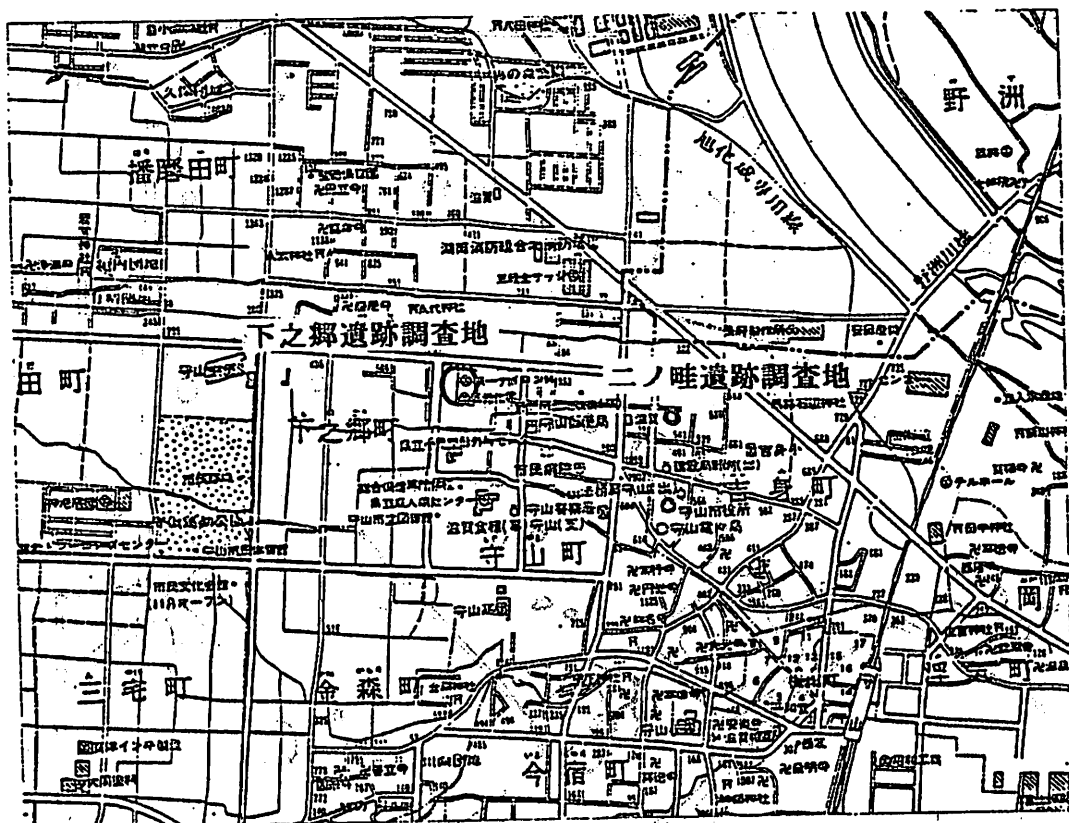
濠の埋土の中には、その当時の生活に用いた道具、つまり土器、石器、木器が大量に廃棄しており、生活の様子を知る貴重な手掛かりになります。土器ではカメ、壺が圧倒的に多く、他に高坏、水差し、蓋などの種類が少数みられ、木器では鋤、弓、匙状木製品、石器は石斧、石ぞく、石庖丁、砥石など、生活に密着した品々と言う事ができます。

濠は幅6~4m、深さ1.2~2mの規模をはかり、延長は数百mに及ぶものと推測できます。現代でも大変な土木工事で、この様な濠を幾重にも掘らなければならなかった社会的背景とは一体どの様なものだったのでしょうか。一般的に防禦施設と考えられていますが、単に防禦を目的に莫大な労力を費やしたのでしょうか。濠の内側に存在する弥生時代中期の集落を明らかにする事によって、この問題解決の糸口が掴めるかもしれません。

下之郷遺跡全体図



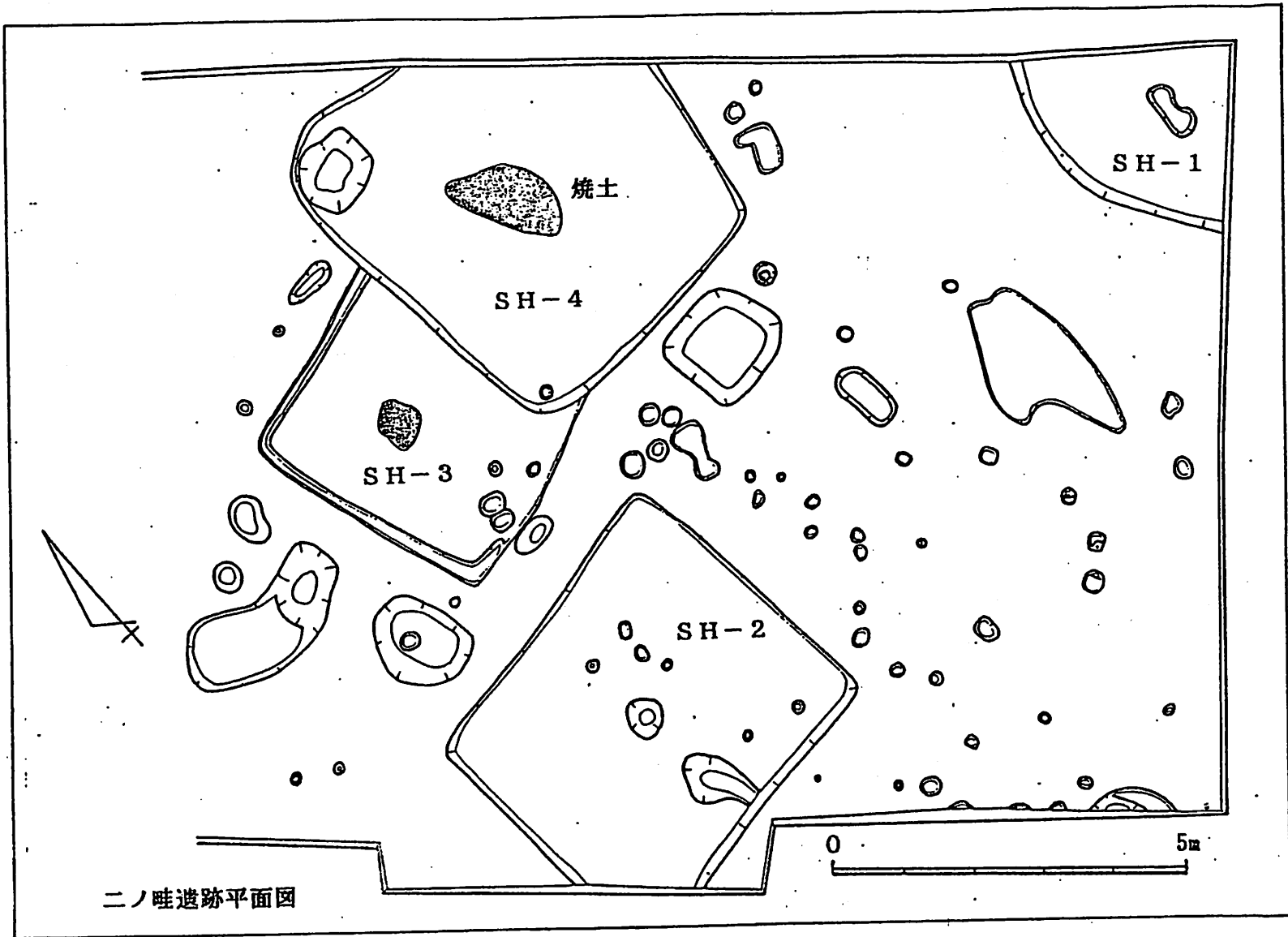
0 15m.



## 二ノ畦遺跡発掘調査

2月中旬から吉身町元町の二ノ畦遺跡の発掘調査を始めています。二ノ畦遺跡は弥生時代中期末頃の環濠集落である事が、これまでの調査により推定されています。今回の調査区は、径250m前後の規模が予想される環濠集落の西限を考えていく上で重要な位置を占めています。

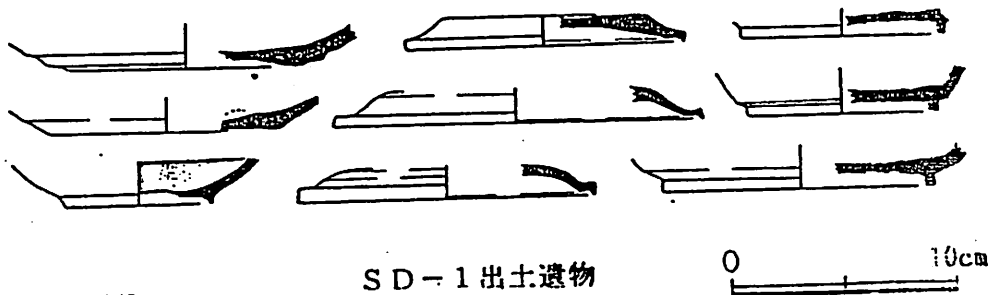
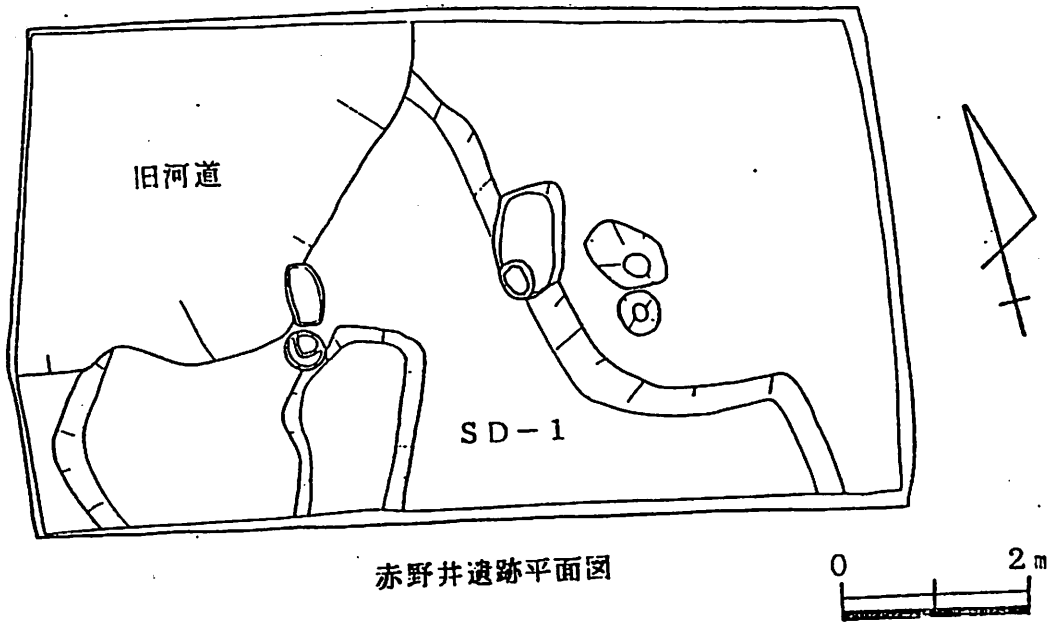
現在約500㎡の調査区の半分を調査した結果、竪穴式住居4棟、土坑7、柱穴群が検出されました。竪穴式住居は円形が1棟、方形プランのものが3棟検出されました。住居跡はたがいに近接しており、さらにSH-3とSH-4が切り合っていることから、数回にわたり住居の建て替えが行なわれていた事が推測されます。このことから弥生時代中期末頃の土器群が比較的時間帯を有している事が推測されました。土器は近江特有の受口状口縁をした壺やカメの他広口壺や台付鉢など中期末に特有なものが住居跡の床面上から出土しています。また石斧が出土しており、この時代が日本で石器を使用していた最後の時代である事がわかります。



二ノ畦遺跡平面図

## 赤野井遺跡発掘調査

農業用倉庫新築に伴って、1月5日～6日の2日間調査を実施しました。赤野井遺跡は赤野井町集落の南側一帯に広がる遺跡で、過去数回の調査により弥生時代後期～平安時代にわたる集落跡が検出されています。特に奈良時代の大型建物群や墨書土器の出土が知られており、明見郷との関連が指摘されています。今回の調査地は赤野町集落の南隅に所在しており、同様の遺構が期待されました。調査の結果、ピット5穴、土壇2基、溝1条を検出しました。溝は幅5.5mの南北に流れる溝で、平安時代初め頃の土師器、黒色土器、須恵器片が出土しました。今回の調査は非常に小さな面積が対象であり遺構の性格などについてのくわしい内容はよくわかりませんが、赤野井遺跡の一端を知り得る結果となりました。



## 史跡 一里塚の緑地整備

今宿町の守山市農協守山支店前にある一里塚は、昭和45年5月に市指定文化財となっていますが、長い年月の間に覆土の崩壊が進み、根は露出状態になっています。現在は周囲をブロックで囲み、一応塚の形状をとどめていますが、倒れることも予想されます。このようなことから全国的に数少ない一里塚保護を目的として、また私有地であったため管理上の問題などから一里塚を買い取り、緑地公園にして保存整備することになりました。整備は下図のとおり周囲を玉柘植とさつきで囲み、十分な盛土をしてくまごさを植樹します。一里塚がつくられた江戸時代は「方五間」(約9m)の塚だったそうですが、今回の整備ではこれよりもひと回り小さくなっています。しかし旅人が一里塚の木陰で休憩したのと同じように、市民の方々の憩いの場としての役割をしてくれると思います。整備工事は既に2月10日より着工され、3月末日に完了の予定です。

